

な、市長はあったんですけど、そういう感じではなくて、やはりこれまではこの一つの建設的なものはあくまでも消費行政だったと私は思うんですね。いろんな建物建てたり、道路つくるといのは。そういったものと、それからこの地場産業を含めたそういう製造業の育成、強化というものは、やはり産業行政といいますか、そういう、私は思うんですね。ですから、こういう厳しいときにこそ、この長井市の地場産業と言えるものが非常に打撃といいますか、厳しい状況が向いてると。これは世界的ですから、それもやむなしというようなところがあるかもしれないかもしれませんが、そういうときこそ、やはりこの将来に向けた一つの長井市の中で産業ができる。その育成事業に対して緊急とかそういった援助的なものを用意できないものかなと。

通常業務の中でも、それなりに商工観光課なり農林課なりで、その分野分野においてそれぞれやられていますけども、例えば新年度においては7%の投資的経費があるわけですよ。これを例えば今までどおりの建設事業を考えた場合、一般財源に振り向けると、国、県の補助金、地方債と合わせると、例えば2億円が2、3倍、なるかわからないが2倍くらいになるかな。4億円くらいの仕事ができると、こういうふうなことで、どうしてもそういったところにこうした投資的経費というものが使われてきたし、市民の要求にもこたえてきたと。そういう考え方でなくて、そうした投資的経費、例えば7.1%、これ7億円まであるわけですね。そして、今回はそこから土地開発公社の土地を2億円ほど購入する。

○佐々木謙二議長 安部議員に申し上げますが、持ち時間が少なくなっておりますので、まとめて質問してください。

○8番 安部 隆議員 そういうことで、そういったところにそういったものを振り向けるといのか、何らかの試験的なものでの支援というの

はできないものかなあと。そういったものを今後考えてみるべきじゃないかなというふうに思いますけど、いかがでしょうか。

○佐々木謙二議長 内谷重治市長、簡潔にお願いします。

○内谷重治市長 地場産業の育成とか、そういったところは議員おっしゃるとおりでございます。具体的な支援について、ちょっと時間がなくてわからないんですが、具体的にぜひ、こういった場合どうだということでお示しいただければ、支援していきなさいいけないというふうに思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○佐々木謙二議長 高橋孝夫議員。

○10番 高橋孝夫議員 ちょっとの間でいいですから、換気しませんか。何か空気がよどんでいますから、ちょっとの間だけ換気していただいて、また新たな環境で質問したらいいと思いますが、ご提案申し上げます。

○佐々木謙二議長 それでは暫時休憩して、換気をとりたいと思います。

午後 2時01分 休憩

午後 2時03分 再開

○佐々木謙二議長 それでは、休憩前に復し、会議を再開いたします。

### 鈴木悟司議員の質問

○佐々木謙二議長 市政一般に関する質問を続行いたします。

順位8番、議席番号2番、鈴木悟司議員。

○2番 鈴木悟司議員 換気をしていただいて、ありがとうございました。

それでは、3月定例会の一般質問に際して、私の通告している質問事項は2点であります。先に質問された方々と重なるところがあるかと思いますが、市長以下、当局の皆様におかれましては、簡潔明瞭なご答弁をお願い申し上げます。よろしくお願いいたします。

2009年に入り、直江兼続が主人公のNHK大河ドラマ「天地人」が始まり、平均20%を超す高い視聴率を誇っています。米沢市で開幕した天地人博には既に3万人近い観光客が訪れているそうです。そして、庄内地方を舞台にした映画「おくりびと」が米国のアカデミー賞外国語映画賞を受賞し、日本じゅうの話題となり、各地の上映会場にはたくさんの人たちが列をつくっております。この映画や大河ドラマを見たたくさんの方々が、雪解けとともに山形に来ていただけるのではないのでしょうか。

「おくりびと」に山形交響楽団とともに出演された音楽監督の飯森さんは、「おくりびとやモンテディオ山形のJ1昇格などで、風は山形に吹いている」と言われました。これから県内を北から南からさまざまな風が吹き込んでくると思います。この風をつかむことができれば、長井市の観光産業を始め、経済再生に対して大きな期待ができると思いますので、この時期にしか見れない、食べれない長井のしゅんを早急に発信していただきたいと思います。

そこで、1つ目の質問ですが、内容市長の施政方針にも書かれておられる長井市経済再生戦略会議についてですが、平成20年度は市民委員の皆様から、まちなか活性化構想、観光マーケティング構想、工業振興構想の3つの部会に分かれていただき、活発な議論を重ねていただいているようです。

2月23日には長井の再生を市民の視点から考える長井市経済再生戦略シンポジウムが開催されました。その中で、基調講演として「農・工・商連携による地域産業おこし」という演目

で、一橋大学大学院商学研究科教授、関満博先生の講演の中で、自立に向かった村、岡山県新庄村のお話がありました。中国山地の奥地の人口1,000人の村が生き生きしていること、岡山県一の桜の名所、凱旋さくらがあり、桜を見に来る観光客が3万人以上来る村であることや、加工場をつくって、もち、煮物、みそなどを直売所で販売している。道の駅をつくり、物販の取り扱いが地元品が半分以上であることなど、関先生のお話の中には、地域産業おこしのヒントはたくさんあったと思います。

特に、農産物の直売所や農村レストランなどは、これから1兆円産業と言われており、安全安心な品物を求める人たちはますますふえていき、今後、10から15%の伸びが期待できる分野だと言われております。

長井市においても、1次産業プラス2次産業プラス3次産業イコール6次産業の可能性を見出して、農・工・商連携の地域産業おこしを早急に進めていただきたいと思います。

ご提案でございますが、まちなか活性化や地産地消を推進するためにも、現在のつつじ公園の駐車場に道の駅をつくり、長井においでくださる方々の憩いの場をつくり、市民との交流の場になるものと思いますが、内容市長のお考えをお聞かせください。

企画調整課長には、長井市経済戦略会議で各部会からの報告と市民の方々からいただいた意見に対して、議論の中間報告ではありますが、地域経済が急速に低迷している中ですので、議論の成果を具体的な経済再生の施策に反映しなければならぬと思いますので、お考えをお聞きしたいと思います。

2つ目の質問でございますが、長井・西置賜地区の県立高校の再編整備についてお伺いいたします。

このことについては、平成20年11月20日に長井市議会に県の教育委員会の方がおいでいた

き、説明を受けました。その後、平成21年に入り、各地で地域説明会が開催されているようです。長井市では、1月13日に生涯学習プラザで行われ、小国町では2月19日に行われました。

ただ、飯豊町と白鷹町の説明会については、日程を調整中のようなのですが、第1回の西置賜地区の県立高校の再編整備に係る検討委員会は2月19日に置賜総合支庁西庁舎講堂で行われたようです。この委員会は一般傍聴ができる検討委員会でしたが、そのことを知ったのは少したってからでしたので、傍聴はできませんでした。

「委員会の概要は、県のホームページに掲載します」とありましたが、いまだに掲載されていないようです。

長井市で行われた地域説明会では、質疑応答の中で、学校の統廃合に関する基本方針は、平成17年度3月に策定され、県立高校教育改革実施計画の中に示されており、現在も継続しているとのことでした。

「西置賜にはどのような教育ビジョンで、どのようなタイプの高校があればよいのかについて検討していただきたい」ことや、「学級減だけでは対応し切れないほど少子化が進んでおり、学校の活動そのものが縮小し、学校の活力が失われる心配がある」と言われました。

しかし、学校は地域にとって心のふるさとであり、地域の文化であることを忘れてはならないと思います。今回は、教育委員長にご就任された加藤委員長への質問になりますが、長井市にとって長井高校と長井工業高校の2つの高校はなくてはならない高校だと思います。中学校の教育現場から考えると、多様な生徒に対してどのような対応をしてほしいのか、小規模校も必要ではないのか、子供たちがよりよい教育を受けられるように検討していただかなければならないと思いますが、お考えをお聞かせください。

内谷市長にお伺いいたします。

高校再編については、長井市だけではなく、西置賜全体を考えた高校のあり方が必要で、統廃合が進めば、選択できる高校が減ってしまうことが課題ではないでしょうか。もっと広く考えれば、東南置賜地区を含めた南学区全体のバランスを考えて検討を進めてほしいわけですが、西置賜地区の3割程度の生徒が東南置賜地区の高校を選択している状況があります。西置賜地区にはどのような学校が望ましいか、地域から求められる新しい学科が必要ではないのかと思いますが、お考えをお聞かせください。

それからもう1点、白鷹町が荒砥高校の入学者に助成金を出したことについて、内谷市長のお考えをお聞かせください。

これで壇上からの質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。（拍手）

○佐々木謙二議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 鈴木悟司議員の方からは、大きく2点、私の方からは3点ほどお答え申し上げたいというふうに思います。

まず最初、地産地消での地域産業の活性化はということでございますが、2月の23日に開催いたしました長井市経済再生戦略シンポジウムにおきましては、鈴木悟司議員からもご出席いただき、そのほか市議会の多くの議員の皆様から参加いただいたことに重ねてお礼申し上げますというふうに思います。

おかげさまで、約120名というタスのバンケットホールいっぱいの皆様の参加をいただきまして、さきの小関勝助議員の答弁でも申し上げましたが、参加された皆様の市経済の再生及び活性化策に対する相互理解の促進と合意形成の道筋が示されまして、当面の所期の目的をある程度達成することができたというふうに思っております。

ご質問のまちなか活性化や地産地消を推進するために、つつじ公園の駐車場に道の駅をつくってはどうかというご提案でございます。大変

+

なかなかおもしろいアイデアだなというふうにお伺いしたところでございます。

ご案内のように、道の駅につきましては、国土交通省より登録されました休憩施設と地域振興施設が一体となった道路施設でありまして、道路利用者のための休憩機能と道路利用者や地域の人々のための情報発信機能、また道の駅を核として、その地域の町同士が連携する地域の連携機能という3つの機能をあわせ持ったものでございます。

議員ご提案のつつじ公園の駐車場に道の駅をということでございますが、ご指摘のとおり、現在、農業の分野の中に、農産物を加工して商品として販売するという、1次、2次、3次の要素が入ってきておりまして、足しても掛けても6になることから、「6次産業」と呼ばれるようになっております。

国の施策におきましても、農・工・商が連携した取り組みが重要視されてきております。市でも今年度から農産物を「レインボープランの里」という独自ブランドで全国に販売する第一歩を踏み出したところでございます。

また、2月7日のながい雪灯り回廊まつりの一環として行われましたナガレンジャー・ファイティングフェスタにおきましては、長井工業高校の皆さんがロボットのまち長井をPRしようということで、ロボット人形焼きの金型をつくるとともに、菓子箱のデザインを行いまして、市内のお菓子屋さんへ人形焼きの作製を依頼し、会場を訪れた皆さんに販売したところ、150箱が瞬く間に完売したということがありました。これも工・商が連携し、地域を活性化しようという取り組みの一つの好例だというふうに思います。

関先生のご講演の中で、直売所、加工場、レストランが、この3点セットですね、今後の農村を変える3点セットということで、中でも直売所は1兆円産業、1兆円市場であり、日本に

残された最後の成長市場という話がございますが、まさにおっしゃるとおりであり、長井市でも観光と農・工・商の産業が連携した取り組みを一層推進し、市民所得の向上を図り、経済を再生していかなければならないと考えております。そのための手段として、鈴木議員ご提案のつつじ公園に道の駅をというご提案も一つの方法であるというふうに思いますし、先ほど申し上げましたように、いいアイデアだと。287号線の中で、長井のバイパスの区間が一番交通量が多いという統計でございますので、そういった意味では大変、ご提案に感謝申し上げたいと思います。

課題といたしましては、つつじ公園は現在、都市公園になっておりまして、名称が松ヶ池公園となっております。高橋孝夫議員の方からの高台の件の際も申し上げましたが、長井市は都市公園が非常に面積の比率が県内の13市の中で一番低いということで、もう少し都市公園をふやさなきゃいけないという状況にあります。そういった中で、公園の開設面積がこの松ヶ池は5.6ヘクタールでありまして、その中に市民文化会館と武道館、図書館が建っている土地も含まれております。都市公園法では、建物の建ぺい率が敷地面積の2%を超えてはならないと規定されておりますので、これ以上道の駅などの建築物を公園内に建てることは残念ながらできない状況でございます。ですから、新たに土地をふやさないと、この建ぺい率の関係で建物を建てるができないという状況でございます。

そんなことから、道の駅をあそこの公園につくることは、残念ながら今の段階では不可能であるというふうに言わざるを得ません。しかし、仮設のテントであれば設置は可能だということであり、経済再生戦略会議の観光マーケティング部会、構想部会、これは観光マーケティングというのは農・工・商連携の観光マーケティングという考え方なんですけども、この中でもつ

つじ公園の駐車場に仮設テントを設置し、観光客や市民の皆さんに対する物産の販売所、休憩所、情報発信基地にはどうかというアイデアも出てきておりますので、平成21年度の戦略会議の中でご議論いただき、具体的なアクションプランの中に盛り込まれれば、設置に向けた予算化の検討を行ってまいりたいと考えております。

次に、大きな2番目の長井・西置賜地区の県立高校の再編整備について。

まず、私の方からは、西置賜の県立高校についてどのような学校が望ましいのか、また新しい地域が求める学科など必要ではないかと、そして隣の白鷹町が荒砥高校の入学者に助成金を出したことについて、どう考えるかということでございますけれども、地域における人材育成については、地元で高校まで進み、その間、地域への郷土愛をはぐくみ、地域で暮らす思いを強くするのが、古いながらも人材育成のスタートであるというふうに思います。そんなことから、長井市でも「長井の心」をまず子供たちにしっかりと教えていくことが必要だというふうに思います。こうした意味で、地域の教育と産業のつながりをいかに強く形成していくかが重要だと思っております。

長井・西置賜地域においては、長井工業高等学校での教育、スローガンとして「長工生よ、地域を潤す源流となれ！」という、この象徴されますように、地域の企業、工業者は、地域の子供は地域で育て、雇用し、産業人として育成していくという意識を持つに至っております。また、普通高校から大学に進学した者が出身地に就職するということが非常に困難な昨今であります。これはとりもなおさず地域の高揚力あるいは産業集積が薄いということであり、これに対応する戦略は国、県、自治体の産業集積の施策に負うところが大きいんですけども、さらにここに求める、地域が求める事業を起業、業

を起こすといえますね、それから操業、地域の自立を支えるという視点を加えることによりまして、生活の場、自己実現の場を地域に確保できるようにするのではないかと。そのためにも多様な可能性を秘めた高校生の進路が地域を指せるような、人材育成の視点できめ細かな教育ができる少人数学級での教育が必要だと思っております。

以上が県立、私立高校の課題であり、国の教育施策にかかわるものであると思いますが、西置賜地域では、他地域より少子化が進んでることもあり、高校生を地域の宝として育てる必要が高いと思います。議員がご指摘のとおり、今、県の方でこれから議論される高校の再編問題については、やはり何としても納得できないのが、なぜ西置賜と東南置賜を分けてやるのかと。同じ学区でありながら2つに分けるといふことの、非常にナンセンスだなあと。じゃあ、西置賜の子供は東南置賜の学校に通えないのかということになるわけですから、それはもっと違った視点で検討されるべきだと私も思っております。

また、学科については、先日あるいは昨年の置賜広域病院組合の中で、看護師さんがなかなか確保が大変な状況になっております。そんなことから、蒲生吉夫議員の方からも、「独自に看護学校をつくっていかなくゃいけないんじゃないか」という話などありました。しかし、置賜病院組合としては、残念ながらその検討するまで至ってないということから、本来であれば、安心して医療かかれるような体制を病院に求める必要があるということから、看護師の確保に資するような学科というものを高校のときから、あるいは高校卒業後2年間の専門科を設けられるようなものがあっても、置賜にいいんじゃないかなと。確かに、私立の病院での看護学校ありますけども、置賜にはその1個しかありませんので、必要だと言われれば、そういった学科が必要なんじゃないかなというふうに思

+

います。

最後に、荒砥高校への入学者への助成でございますけれども、やはり隣の白鷹町のことでございますので、余り批判的な考えはしておりませんが、残念ながら長井市ではこういったことはできないだろうなというふうに思います。やはり高校は何としても残さなきゃいけないというふうに思いますけれども、それを永遠に続けるということは、なかなか入学者に、特定の高校の入学者だけに行政が支援するというのは、やっぱり政策の継続性から見て難しいだろうと思っておりますので、白鷹町の判断は白鷹町の判断として、私はそれはそれでいいとは思いますが、残念ながら長井市ではできないというふうに思います。以上でございます。

○佐々木謙二議長 加藤弘二教育委員長。

○加藤弘二教育委員長 鈴木悟司議員のご質問にお答えします。

鈴木悟司議員からは3点のご質問があったと思いますが、最初に、長井市における県立高校の必要性について。

長井市にとって、長井高校と長井工業高校の必要性についてどう考えるかのご質問ですが、昨今、山形県でも高校進学が98%を超え、また中学校を卒業してもすぐ就職するということはなかなか困難な時代になりました。今や高校教育は準義務教育的な性格を持つようになってきております。

長井市でも、高校、各種学校を含めると、ほぼ100%の進学率となっております。現在、市内には職業教育を担う長井工業高校と普通教育を担う長井高校があります。まず、この2校で学んでいる市内の生徒数ですが、今年度、市内出身の生徒は長井工業高校には236人が在籍しております。この人数は長井工業高校生の51%になります。長井高校には222人が在籍しております。この人数は長井高校生の37%になります。長井工業高校生の半分強、長井高校生の3

分の1強が市内の子供たちとなるわけです。

また、西置賜出身で見ると、長井工業高校には白鷹、飯豊、小国町出身の生徒が今年度、158名在籍しており、長井と合わせますと86%が長井・西置賜出身の生徒となります。長井高校には、白鷹、飯豊、小国町出身の生徒が今年度、231名在籍しており、長井・西置賜出身の割合が76%になります。

次に、教育機能面では、長井工業高校生の生徒諸君は、卒業後、地元就職することが多く、地域社会の活力維持と発展に大きく貢献していると考えます。また、長井高校においても、就職や上級学校への進学など、将来の進路に向かうための準備教育が施され、卒業生は自分の進路に向かって進んでおり、効果も上げております。

このように、長井市内の県立高校2校は、長井・西置賜の学校としての存在のもと、地域の産業や社会の振興に貢献する人材の育成に大きく寄与しております。また、高校生諸君の日々の活動は、ボランティア活動などを通し、長井市民の生活にも溶け込んでおり、市民にとってその存在は大変ありがたいものとなっております。したがって、今後も県立高校2校は、長井市内になくってはならないものと考えます。

次に、中学校の教育現場から考える高校のあり方、特に多様な生徒に対してどのような対応を考えるか、小規模校も必要ではないかというご質問ですが、現在、西置賜には荒砥高校、1学年が2学級でございます。長井工業高校が4学級、長井高校が5学級、置賜農業高校飯豊分校は1学級、小国高校が2学級、こういうふうな高校の状況であります。それぞれに役割を持って大変頑張っている高校だと考えております。

長井高校と長井工業については、さきにお答えしたとおりであります。小国高校については、地理的な点に配慮しながら、連携型中高一貫教育を実践していますし、荒砥高校、置賜農業高校飯豊分校も小規模校で学びたいという生

徒や大勢の中ではなかなかじめない生徒にこたえる学校として、それぞれ特色ある教育を行っております。

準義務教育的な性格を持つようになった高校教育を考えれば、多様化する子供たちの希望に沿う小規模の学校はどうしても必要であると考えます。

次に、3点目の子供たちがよりよい教育が受けられるようにするにはというご質問でございますが、次のように考えます。

1つは、子供たちが希望する学校や学科があること。準義務教育的な性格を持つようになった高校教育ですので、その選択肢があればあるほどいいと思います。そして、多様な適正、進路希望、興味、関心などに応じて、生徒一人一人が持つ可能性を伸ばしてやることのできる環境が大事になると思います。

2つ目は、充実した教育を提供できるような適切な学校規模であること。ある程度の学級数が確保できないと、教員数も少なくなり、専門的な教科の担任が確保できなくなり、その教科の授業ができないという支障も生じてきます。また、集団の中で切磋琢磨して伸びる環境も大事になると考えます。

3つ目は、地域とのかかわりの中で、学校が存在していること。特に、長井工業高校のように、地域と密着して産学官連携のもとで人材を育成できるような環境づくりができれば、子供たちの将来に対する見方も変わってくるのではないかと思います。長井工業高校は、鈴木悟司議員もご存じのように、技能検定試験で多数の合格者やマイクロマウス大会での入賞の実績を持ち、長井市内製造業企業の人材供給の一翼を担っております。地元で働きたいという希望を持った高校生を社会に送り出す教育機関として、地域からの信頼も厚く、地元と一体となった高校として注目を浴びています。そのほかに、教員の質の問題、通学の利便性などさまざまある

と思いますが、最終的にはみずからの人生を切り開いて、自立できる人間として送り出してやることのできる教育環境が整っていることが大切であると考えます。

ご質問に対する答えとなっていないこともあるかと思いますが、ご了承いただければ大変ありがたいと思います。以上で終わります。

○佐々木謙二議長 遠藤健司企画調整課長。

○遠藤健司企画調整課長 鈴木悟司議員のご質問にお答え申し上げます。

今回の長井市経済再生戦略会議での各部会からの中間報告、市民の皆様からいただいた意見についての考えはというようなことでございます。

ご案内のとおり、平成20年度経済再生戦略会議、市民の皆様37人で構成していただきまして、まちなか活性化構想、観光マーケティング構想、工業振興構想というような3つの部会で、3回から4回、11月以降、活発なご議論を重ねていただきました。21年度もこれを継続していく予定でございます。それを踏まえまして、2月23日、先ほど市長が申し上げましたシンポジウムを開催させていただいたところです。

シンポジウムでもご紹介申し上げましたが、まちなか活性化構想部会の議論としては、1つは、長井駅の周辺とまちの水について。2つは、本町の街路の整備について。

(「もっと大きい声で話して」の声あり)

○遠藤健司企画調整課長 風邪を引いていて申しわけありません。3つは、小出と宮の連携の3つの大きなテーマに沿って意見交換が行われ、まちなかの水飲み場の設置や観光客に水をサービスするなど、水を前面に押し出したまちづくりを今後の展開として行っていったらどうかということ。宮エリアと小出エリア、宮地区と小出地区、イベントとイベント、歴史的な建造物など、それぞれのスポット、観光スポットをつなぐための動線として、本町の街路事業が必要

+

ではないかということ。また、安心して歩ける本町の街路事業とあわせて、ヨークベニマルのようなスーパーの立地や街路沿いで市民が用を足せる施設の立地が必要であるということ。長井のまちはコンパクトで回遊しやすいが、まちなかを歩いてもらうには、宮と小出の中間地点に魅力ある中継地の整備が必要であることなどのまちなか活性化の部会から提言をいただきました。

一方、観光マーケティング構想部会の発表では、山形大学の山田先生から、最初に今後の長井市の観光のテーマとして、仮称であります、「エコトピア長井」を目指したらいかがかというようなことがありました。環境にも人にも優しい観光政策を行っていったらどうかというご提案でございます。

今後の展開としては、早急に必要なアクションは、まず歴史、地理、地域を知る勉強会の開催が必要であると。また、長井市のPRの強化と観光客の属地調査の実施をすること。どちらからいっちゃって、どちらに観光に行かれるかという調査をすること。平成21年度においては、各種イベントの意識の再編、市民レベルでの企画の再編、試案の予算化などを実施すること。平成22年度には、再来年度になりますが、イベント会場、ルートの変更、動線整備、施設整備、予算化できた試案の本格的な実施を行うことなど、前向きな力強いご提言をいただきました。

さらに、工業振興構想部会の発表においては、平成7年からポスト企業城下町を目標として、地元の中小企業、工業高校、行政の産学官連携により、人材育成、情報発信、全国とのネットワークの形成などの施策を講じた結果、長井市の名前は、国内では少しは知られるようになりました。しかし、今回の世界同時不況などで、国内の製造業がリセットされたというふうな状況にあります。こういう中で、今後は地域資源

による地域発ビジネスの資源を考えていかなければならない。また、地域発ビジネスの資源とは、異業種の連携、水や農産物等の素材、人の活躍であろうというふうなことでございます。こういう資源をチャンスとしてとらえ、確実なものとしていくために、一点集中で循環の成功事例を一つつくる手順を考えていくことが必要であって、例えばロボットとレインボープランをつなげて、環境もターゲットにした地域産業モデルを構築していくことも必要ではないかという提案をしていただきました。

今回の中間の総括としましては、長井市の経済再生にとって一番重要なものはつながりでありまして、ニーズとシーズを突き合わせて、観光振興とまちづくり施策の推進につなげていくことが必要であるし、全体的に見ると、外部への発信力がまだまだ弱いので、強化していく必要があるのではないかとのおまとめをいただいたところでありまして。この部分は行政がしっかり頑張っていかなければならないというふうに思っております。

平成21年度については、20年度にご提案いただいたものを体系的に整理しまして、何をいつまで、どのように、だれが行っていくかというところを具体的なアクションプランをつくりながら、平成22年度予算に反映できる施策から順次関係課と予算要求の検討を進めていきたいというふうに考えてます。以上でございます。

○佐々木謙二議長 2番、鈴木悟司議員。

○2番 鈴木悟司議員 どうもありがとうございました。

最初に、農・工・商連携による地域産業おこしということで質問をさせていただきましたけれども、企画調整課長からもたくさん、やっぱり経済再生という部分になると、かなりたくさん要素が含まれるわけですけども、最後に言われた、やっぱりつながりがないと発展していかないんだろうなというのが一番じゃないかって



いうふうに思っています。なので、道の駅という  
ような中で、農・工・商連携しているんなもの  
つくって販売していくという部分がこれからは  
特に大事になっていくんじゃないのかなという  
ふうに思っております。

ただ、市長の方からもちょっとつつじ公園が  
都市公園ということで、なかなか建物が建てら  
れないという部分があるかと思えますけども、  
やはり仮設テントはオーケーであるというよう  
な発想は私も大事だと思います。市民の方々か  
ら何かイベント広場として屋根が欲しいなあ  
という話がたくさんございました。いわばその  
仮設テントというのものいろんなやり方がある  
と思えます。恐らく囲わってさえいなければ建物  
ではないという発想はあるのかなというふうに  
思えますけども、そういった部分で、いろんな  
そこでイベントができるようなものは十分つく  
れるんだと思えますけど、どうでしょうか、市  
長。

○佐々木謙二議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

仮設テントというよりも、周りのないドーム  
みたいな形だと思いますが、なかなかおもしろ  
いことだなと思います。やはり、特に長井に入  
られるお客さんから見れば、非常に便利な場所  
ですし、つつじ公園あるいはタス、また本町、  
あら町に近いエリアでございますので、そうい  
ったことも今後ぜひ検討してまいりたいと思  
いますが、やはり重要なのは、どっから少ない予  
算の中で着手することによってうまく回って  
いくかということでございますので、その点を含  
めて、道の駅的機能が一番いいのか、その辺な  
んかも議論しながら考えていきたいと思いま  
す。

○佐々木謙二議長 2番、鈴木悟司議員。

○2番 鈴木悟司議員 ありがとうございます。

レインボープランで全国に名前ブランドで売  
っていくという発想をこれからしていくわけ  
ですけども、直売所なりファーマーズマーケット

とかそういう趣旨で、農業、これから地域の中  
で発展させていこうとすると、もう逆の発想を  
しなければならないというふうに言われている  
と思うんですよ。

ある本を読んだときにですけども、農家の意  
識改革が必要であると。多品目少量生産体制を  
確立していくんだと。今まで農協は少品目大量  
生産でやってきた。ただ、もうそれが何ぼつく  
っても売れないと、買ってもらえないと、値段  
も上がらないという中で、やっぱり直売所とか  
そういった部分で売るのは、もう反対方向へ  
の転換をしなければならないと。

ある直売所の代表なんかは、一畝ごとに作物  
を変えよう。同じものをつくるならば、時期を  
ずらしてつくろう。そうすることで、店全体の  
品ぞろえがよくなるというような店づくりをす  
ることで、年間通しての直売所を運営している  
と。もう今は、全国にその直売所は道の駅なり  
のやり方で成功してるところは本当にたくさん  
あるというのが、皆さんご存じだと思うし、テ  
レビでもたくさん場所が、農家レストランなり  
出てきております。ですので、やり方なんで  
すけども、やっぱり伊佐沢地区みたいに農村の  
中での直売所というのは、農家だけでできるこ  
とですけども、やはり国道沿い、主要な場所、  
やっぱりそういうところは市が率先して場所を  
提供してやっていくことが大事なんじゃないか  
なと思います。特に大きなそういう道の駅的な  
部分は、立地状況ですね、ちょっと資料を見た  
んですけども、45%が主要道路沿いで最も高い。  
伊佐沢地区みたいな農村地区にあるのは33.9%、  
あと住宅地区とか商業地区にあるのが9.5%、  
4.9%というような資料なんかもあるんですね。  
ですので、やっぱり主要道路で、町の人も行く、  
あと本当に287号線沿いで、いろんな方が入っ  
てもらえる、大型バスがとまれる、非常にいい  
場所だなというふうに私も思っておりますので、  
何らかの施策をこれから考えていただきたいな

+

というふうに思っております。

あともう1点、加工場なんですけども、2月にちょっと給食なんか米パンという部分が出てましたけども、米粉のそういった加工に関して、本来は農林課長なんかだと思いますけど、書いておりませんので、市長、そういった米粉パンの利用ということで、これからどのような普及していくのかなというふうに思っておりますか。

○佐々木謙二議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 経済再生戦略会議の中のメンバーに、吉田製粉さんが入っておられます。米粉を使ったパンとか、あるいはうどんであったりとか、そういったものについては、県内ではパンについては吉田製粉さんが唯一だそうです。工業振興部会の方に入っているんですが、やはり工業振興部会といっても、製造業、いろんな食品関係の製造業とか、あるいは木工あるいは酒造関係なんかも入っていて、いろいろ意見交換してる中で、米粉のパンとかいろいろ話もありました。ですから、あとはどのようにして今度、米の加工用の米として長井市内でうまく今の国の農政の中で、連携して商品化までつなげていくことができるかということで、そういった意味では米粉の製粉を市内の業者がなさってるということですから、ぜひその辺は経済再生戦略会議の中でも具体的に何かできないかというふうに考えてるところでございます。

あと、やっぱり加工については、長井の問題点は、例えば伊佐沢はなぜあそこで直売所が成立するかというと、栽培農家がたくさんいらっしゃる。ところが長井はどうかと。例えば白鷹なんかもですね、どりのむ館は栽培農家がいっぱいいるわけなんです。ですから、そこも考えて、やっぱり直売所とか加工ってものを考えなきゃいけない。行政の方で加工場とか直売所をつくって、農家を探すような状況ではだめです。で

すから、そのところをやっぱり考えていかなきゃいけないということで、戦略会議も含めて検討していかなくちゃいけないと思っております。

○佐々木謙二議長 2番、鈴木悟司議員。

○2番 鈴木悟司議員 ありがとうございます。県立高校の方のお話をさせていただきたいんですけども、検討委員会が開かれたわけですけども、もしその検討委員会の内容で、行政側でわかっていることがあれば、教育委員長、もし、ございませんでしょうか。

○佐々木謙二議長 加藤弘二教育委員長。

○加藤弘二教育委員長 長井市教育委員会としては、その概要というか内容をとらえておりません。これから来るのかどうかわかりませんが、なお、問い合わせをみたいというふうに思います。

○佐々木謙二議長 2番、鈴木悟司議員。

○2番 鈴木悟司議員 ぜひ資料をいただければというふうに思います。私もインターネットで調べてみたんですけども、文章ではちゃんと出すと言ってるのに出てこないですね。もう出てるのか、ちょっとわかりませんが、なかなかその辺の対応が、知事がかわったから遅いのかどうかわかりませんが、ぜひ、そんなことは言いたくないんですけど。私も非常に今、高校のPTAもやっております、かなりそこをきちっと把握しておきたいなと思っております。よろしくお願ひしたいと思います。

あと、やはりぜひ地域の中で、これからこういった科が欲しいとか、やっぱり内谷市長も言われたように、置賜病院には看護師をそろえるには、なかなか難しい現状があるという部分で、県内ではやっぱり山辺高校のような、食物科、看護科、福祉科という学校があるわけですので、非常に看護科や食物科は倍率が高い科であります。やっぱりそういった科が西置賜にもあることによって、即戦力として地域に貢献できる子供たちが生まれるのではないかというふうに思

いますので、ぜひいろんなこういった検討委員会とか、ちょっとだれがメンバーになってるかわからないんですけども、これから言っていたきたいなというふうに思います。その辺は市長、どうでしょうか、もし。

○佐々木謙二議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 ぜひそういった地域で求められる学科については、県の方に要望してまいりたいと思います。なお、県の方で組織しております検討委員会で、長井市からは名前を言っていない、わかります、言っていないんですね。薬師寺の佐藤真琴住職が長井市で1名ということで委員になっておられますので、ぜひ行政側からも佐藤委員の方にこういったことでぜひ委員会の中で要望してほしい旨も伝えながら、あとはまた一方で行政ルートでそういった新しい学科についてもいろいろ申し述べてまいりたいと思います。

○佐々木謙二議長 2番、鈴木悟司議員。

○2番 鈴木悟司議員 こういった今、高校再編については、やっぱり長井市だけの問題ではないなというふうに非常に思っています。長井工業、長井高校にもやっぱり西置賜から本当にたくさんの子供たちが集まっているわけで、そういった話を各町長となさったことはございますでしょうか。

○佐々木謙二議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 まだ具体的には話ししてありませんが、県の今までの案ですと、西置賜に2校ということでありますので、そうしますと、1市3町の中でいろいろな思惑があるのかなというふうに思いますので、これから話進めるときは、やっぱり基本で、地域にとってやっぱり必要な高校が現在の形だということを1市3町連携しながら県に要望してまいりたいと思っています。

○佐々木謙二議長 2番、鈴木悟司議員。

○2番 鈴木悟司議員 まだこれからぜひそうい

ったところ、各町長ともお話をいただいて、よりいい学校を残していただけるようお願いしたいと思います。

以上で質問終わります。ありがとうございました。

○佐々木謙二議長 それではここで暫時休憩いたします。再開は3時15分といたします。

午後 2時54分 休憩

午後 3時15分 再開

○佐々木謙二議長 休憩前に復し、会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

なお、大分暑くなりますので、上着の着脱は自由にして結構でございます。

## 蒲生吉夫議員の質問

○佐々木謙二議長 順位9番、議席番号17番、蒲生吉夫議員。

○17番 蒲生吉夫議員 本日最後の質問になりますが、通告しております順に質問を申し上げたいと思います。

最初に、保育計画についてご質問申し上げます。

このたび、3月に出された平成21年度から30年度までの長井市保育計画策定の背景について、1番の理由は、人口減少に歯どめがかからないと言っておられますように、平成30年度の人口推計として、2万7,510人、学齢前人口1,238人、出生数150人と暗い推計となっていますが、減少傾向はこれ以上早まることも否定できないと思います。長井市のように、人口3万人を割っ